正直者が善い人なのか？

—嘘をつく意図が発言者の評価に与える影響—

○田口恵也

(名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

Key words: 嘘, 利他性, 道徳性

目 的

嘘をつくことは、道徳・社会規範からの逸脱行為として捉えられている (Bok, 1978)。一方で、人は日常的に嘘を利用しており (Depaulo, Kashy, Kirkendol, Wyer, & Epstein, 1996; 村井, 2000)、他者のための嘘をついた人物が道徳的であると評価されることも明らかになっている (Levine & Schweitzer, 2014)。したがって、嘘は逸脱行為としてとらえられることもあるが、必ずしも非道徳的であると評価されているわけではない。

しかし、Levine & Schweitzer (2014) が実施した実験は、ゲームの実施場面を第 3 者が評定する形式であり、日常場面とは異なっていた。他者のための嘘に対する許容度の評価が文脈によって異なる (Cantarero, Szarota, Stankou, Navas, & Espinoza, 2018) ことから、嘘をついた人物の道徳性評価においても、日常的な文脈を考慮したうえで検討する必要がある。また、先行研究では嘘の意図が発言者のパーソナリティの評価に与える影響については検討されておらず、他者のための嘘をつく人がどのようなパーソナリティだと評価されているかは明らかにされていない。

そこで、本研究では、嘘をつく意図が嘘をついた人物の道徳性やパーソナリティの評価に与える影響について検討した。

方 法

実験計画: 「発言の種類」(利己真実・利他真実・利己嘘・利他嘘) 要因の 1 要因参加者間計画。

参加者: 大学生 150 名 (男性 53 名, 女性 97 名)。

シナリオ: 場面想定法による質問紙実験を実施した。シナリオは以下の状況を設定した。①食べられないお土産をもらい、感想を聞かれた際、応答する場面。②血液型診断を信じる相手から誤った血液型の指摘を受け、応答する場面。

手続き: 参加者は各シナリオを読み、シナリオ中で発言を行った人物の道徳性 (Levine & Schweitzer (2014) をもとに作成) とパーソナリティについて、第三者として各項目について 7 件法で評定を行った。パーソナリティの評定については、日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J; 小塩, 阿部, カトロニ, 2012) を使用した。

結 果

道徳性についての 10 項目に対して探索的因子分析を実施

した結果、「思いやり」(優しい人だ, 思いやりのある人だ, など 5 項目) と「公正さ」(正直者だ, 誠実な人だ, など 5 項目) の 2 因子 ($\alpha > .81$) が抽出された。

道徳性及びパーソナリティを従属変数とした 1 要因分散分析を行った (表 1)。その結果、シナリオ①では、道徳性尺度のうち、思いやりに関して、群の効果が有意傾向であった。また、公正さに関して、群の効果が有意であった。多重比較の結果、利己真実群・利他真実群が利己嘘群・利他嘘群より、公正さ得点が高かった。シナリオ②では、思いやりと公正さに関して、群の効果がともに有意であった。多重比較の結果、利他真実群・利他嘘群が利己真実群・利己嘘群より思いやり得点が高かった。さらに、利他真実群, 利己真実群, 利己嘘群および利他嘘群の順で、公正さ得点が高かった。

パーソナリティのうち、シナリオ①では、協調性に関して、群の効果が有意傾向、外向性、勤勉性、神経症傾向、開放性に関して、群の効果が有意であった。シナリオ②では、外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向に関して、群の効果が有意であった。各シナリオにおける多重比較の結果、利他嘘群が利己真実群・利他真実群より神経症傾向得点が高かった。さらに、利己真実群・利他真実群が利他嘘群より外向性得点が高かった。また、シナリオ②において、利他真実群・利他嘘群が利己真実群・利己嘘群より協調性得点が高かった。

考 察

Levine & Schweitzer (2014) と同様に、嘘は真実と比べて公正さに欠けるものだと評価された。一方、シナリオ②では、利他的な嘘を伝えた人は、利己的な嘘を伝えた人より思いやりがあり、協調性の高い人であると評価された。なお、シナリオ①における思いやり得点、協調性得点の差が有意傾向に留まったため、本研究の結果の解釈には注意を要する。しかしながら、シナリオ②では有意差が示されたことから、利他的な嘘と利己的な嘘が常に同質なものとなされるわけではないと推察される。

また、利他的な嘘をついた人は真実を伝えた人よりも神経症傾向が高く、外向性が低いと評価された。これらの結果から、嘘をつく意図の違いが発言者のパーソナリティ評価に影響を与えることが示唆された。

(Keiya TAGUCHI)

表 1 各群の記述統計量と分散分析の結果

シナリオ	変数名	各群 ¹⁾ の平均(SD)				分散分析の結果		
		1	2	3	4	F 値 ²⁾	偏 η^2	多重比較 ($p < .05$)
①	思いやり	5.76 (0.70)	5.76 (0.92)	5.33 (1.04)	5.71 (0.83)	2.15 [†]	.04	n.s.
	公正さ	6.05 (0.68)	6.04 (0.69)	4.01 (0.87)	4.23 (0.95)	72.11 **	.60	1, 2 > 3, 4
	外向性	4.30 (0.85)	4.51 (1.07)	3.82 (1.00)	3.60 (1.13)	6.41 **	.12	1, 2 > 4; 2 > 3
	協調性	5.84 (0.84)	5.70 (0.98)	5.31 (0.94)	5.69 (0.85)	2.44 [†]	.05	n.s.
	勤勉性	4.95 (0.81)	5.41 (0.95)	4.36 (0.77)	4.44 (0.86)	12.41 **	.20	2 > 1 > 3, 4
	神経症傾向	2.84 (0.88)	2.87 (0.96)	3.27 (0.89)	3.60 (1.16)	5.02 **	.09	4 > 1, 2
	開放性	4.41 (0.72)	4.25 (0.88)	3.83 (0.82)	3.89 (0.90)	4.16 **	.08	1 > 3, 4
②	思いやり	4.02 (0.92)	4.79 (0.95)	3.57 (0.84)	4.70 (1.22)	12.63 **	.21	2, 4 > 1, 3
	公正さ	4.77 (0.90)	5.29 (0.74)	2.78 (0.74)	3.08 (1.01)	77.78 **	.62	2 > 1 > 3, 4
	外向性	4.34 (0.89)	4.21 (0.78)	3.76 (0.84)	3.27 (1.15)	10.36 **	.18	1, 2 > 4
	協調性	3.69 (0.97)	4.60 (1.20)	3.84 (0.88)	5.14 (1.16)	15.20 **	.24	2, 4 > 1, 3
	勤勉性	4.84 (1.04)	5.03 (0.95)	3.46 (0.91)	3.95 (1.06)	20.59 **	.30	1, 2 > 3, 4
	神経症傾向	3.04 (0.78)	2.95 (0.72)	3.61 (0.86)	4.36 (1.24)	19.02 **	.28	4 > 3 > 1, 2
	開放性	4.08 (0.97)	3.99 (0.77)	3.87 (0.60)	3.69 (0.86)	1.63	.03	n.s.

注1) 1.利己真実群, 2.利他真実群, 3.利己嘘群, 4.利他嘘群 注2) [†] $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$